

3月定例会ではこんなことが審議されました

(主なものを抜粋しています。詳しくは、下記の委員会審議をご覧ください。)

平成31年度一般会計予算

予算規模は過去最大の261億1,000万円

「持続可能なめがねのまちさばえ」が
キャッチフレーズ

- ・空き家対策事業（71万円）
空家対策計画を策定し、空き家所有者に対し適正管理を促すとともに、定期的な維持管理の重要性を周知する事業
- ・防災対策事業（489万円）
防災資器材の管理・点検と、防災関連組織の知識向上と意識の醸成を図る事業
- ・LIMEX（ライメックス）を使用した家庭ごみポスター作成事業（58万円）
紙の代替となる新素材（LIMEX）で、家庭ごみポスターを作成し、配布、回収、再利用までの仕組みを構築する事業
- ・さばえブランド菜花米支援事業（1,392万円）
さばえ菜花米や特別栽培米の生産者への支援を行うことで、差別化されたおいしいさばえ米づくりを支援する事業
- ・さばえものづくり博覧会開催事業（1,000万円）
市内産業の振興と後継者育成を目的として、ものづくり博覧会を開催
- ・地域密着型サービス施設整備等事業について（2億960万円）
対象施設を整備しようとする事業者に対し、費用の一部を助成することで、サービス利用者の福祉の向上を図る事業
- ・保育体制の強化について（1,684万円）
保育士の資質向上や業務負担の軽減など、保育士の職場環境整備を図る事業

委員会審議

総務委員会

平成31年度一般会計予算

●コミュニティバス運行事業

問 コミュニティバス運行における平成31年度の変更点は。

答 ダイヤについては、基本的な運行形態は維持しつつ、市内中心部を循環する循環線と各地区をまわる支線との接続時間の見直し。JR線との接続時間の改善。高年大学への乗り入れ便の増加や発着時間の調整。更なる利用促進と新たな利用者の掘り起こしを図るため、定期券を発行。また時刻表のサイズを大きくし、見やすいものを作成する。

●空き家対策事業

問 空き家は増加していく傾向にあり、いろいろな課題があると思われるが、今後の空き家対策に必要なものは。

答 新年度内に空家対策計画を策定し、解体や利活用の支援・補助金等について盛り込みたい。また、昨年12月に、鯖江市内の空き家対策における民間の弁護士や行政書士の方々が所属している団体2者と協定を結び、専門的な部分をお願いしようと考えている。そして、今後は、地域の方々の協力が必要と考えており、所有者・町内・行政・協定団体との協働

の中で、地域一体となった空き家対策を行ってきたい。

●防災・防犯諸費

問 防災対策の課題に対して対応するものには、どのようなものがあるのか。

答 毎年、毛布やダンボールベッドを購入している。これは、避難所における高齢者の災害関連死を防止するため、環境改善を図るためのもの。



ダンボールベッド

また、縮災事業として、地区で防災協議会を立ち上げ、避難所運営に関わっていただきたいと考えている。一方、避難所では生活できない高齢者の方など要配慮者について、「福祉避難所への避難か病院への搬送か」という、福祉トリアージが整備されていないのが現状。そこで、市内の看護師資格保有者の方に、減災ナースとして避難所での支援をいただくという仕組みを立ち上げていきたい。